

『幸せな共同体・ましこ』の実現 未来にはばたく子どもの育成

地域の
特色ある
活動

栃木県益子町教育委員会

1 はじめに

益子（ましこ）町は、栃木県の南東部に位置し、人口約 21,000 人の焼き物の里として知られる町です。

益子焼は、江戸時代末期に笠間市で修行した大塚啓三郎が益子に窯を築いて始めました。優れた陶土を産出することと大消費地東京に近いことから、鉢、水瓶、土瓶などの日用の道具の産地として発展しました。1924 年に濱田庄司がこの地に移住し、『民芸品』として発展させました。現在は、若手からベテランまでここに窯を構える陶芸家も多く、多種多様な作風の陶器が作られています。

また、濱田庄司がイギリスのバーナードリーチと共にイギリスのセントアイヴスに窯を築いたことから、世界的にも益子焼は知られるようになりました。

現在、益子町には、小学校 4 校、中学校 3 校があります。少子・高齢化は進んでおり、人口減少対策が喫緊の課題です。町の最上位計画である『第 3 期ましこ未来計画（R3 年度～R7 年度）』において、『幸せな協働体（共同体）ましこ』の実現をめざして、人口減少などの課題に対し、逆転の時代を作ろうと、様々な施策に取り組んでいます。最大の課題として少子化対策があり、子育てや教育環境の整備は重要課題であります。

2 「社会的に自立した人財の育成」

(1) 「ましこ育脳プログラム」の普及

上記計画の施策の中で、子育て及び学校教育の両方に関わるものとして、「ましこ育脳プログラム」があります。

益子の豊かな環境の中で、脳科学の理論に基づき、子どもの成長や脳の発達過程に合わせた 4 つの段階を踏まえて脳を育てるプログラムです。

1 段階：0 歳～3 歳は、親子で心を育む時期。自然の中で五感を育む時期。

2 段階：3 歳から 7 歳は、一生ものの脳が働く仕組みを作る時期。

3 段階：7 歳から 10 歳は、自主性を育て完成させる時期。

4 段階：10 歳以降は、子どもの脳から大人の脳へと変化する時期。

「育脳プログラム」により、非認知能力を育成し、粘り強く思いやりがあり、たくましく未来にはばたく人財を育成していこうとするものです。

子育て世代の保護者に対して、健康福祉課管轄の保健センターや「ましこココハウス」という施設で子育てセミナーや読み聞かせなどを実施しています。家庭教育で基礎を作り、小学校につなぎ、前向きな言葉掛けにより自己肯定感を高め、意欲と文武両道を実現し、社会的に自立した人財を育てる計画です。

(2) 「世界に通用する人」の育成

① 目指す子ども像「ましこの人」

益子町の教育では、目指す子ども像として、「ましこの人」というキャッチフレーズがあります。

ま；まじめに学習する人（知）

し；しんせつで温かい人（徳）

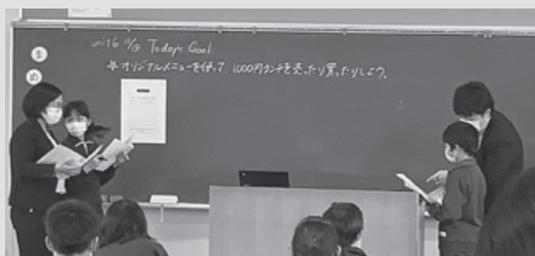
こ；こんなに打ち克つ逞しい人（体）

の；のどかな自然を愛する人（環境）

人；世界に通用する人（国際）

というものです。

世界に通用する人を目指し平成24年度から教育課程特例校として地域の特性を生かし、各小学校で小学校1年生から外国語活動を導入してきました。



また、中学生に対しては、英語検定の3級以上の受検者には、受検料の全額を補助し、英語に対する意欲を高める応援をしています。

さらに、1920年に濱田庄司がバーナードリーチと共に築窯したイギリス南西部の友好都市セントアイヴスへの中学2年生の海外派遣事業を実施してきました。ここ3年間は新型コロナウイルスの影響で中止していますが、その成果は大きく、世界に目を向ける生徒が育つよう、海外派遣を継続したいと思います。

3 「歴史や文化財の活用」

(1) ふるさと教育の充実

町には、豊かな自然や歴史的に貴重な文化財があります。各小中学校でふるさと教育として取り組んでいる主なものを紹介します。

① 「ましこ検定」の実施

ふるさと教育の一環で、町の歴史や文化財等の理解を深めるため、毎年2月、中学1年生全員に「ましこ検定」を実施しています。社会科副読本を基にして、地域の人が作成する問題により行います。

受検会場は学校ですが、検定の運営や採点等の事務は町生涯学習課の職員が行い、学校教員の負担は軽減しています。

7割以上の正答で合格となり、合格証と記念品が授与されます。

② 「ましこ世間遺産」訪問

「ましこ世間遺産」に指定されている町内57か所名所や文化財などから身近な数か所を訪問し、地域の良さを感じていくものです。自分の住む益子町・身近な文化財を知ることにより、地域への理解が深まり、愛着が湧いてくることを感じます。これにより地域を愛し、町に対する誇りを持ち、将来、益子町に住んで、より良い町づくりに対する関心を高めてくれることを期待しています。

③ 「小中学校・高校陶芸展」

焼き物の町、益子ならではの陶芸展を毎年12月に実施しています。陶芸に関心のある児童生徒が作品を出展し、審査と表彰を実施しています。

4 おわりに

このように、町の宝である小中学生が、将来にわたり主体的に考え行動できるたくましい人になり、誰もが夢と希望を持ち、幸せな生活を送ることを願い、教育委員の皆様とともに、教育環境の充実に努めてまいります。



教育長

三田 進